

ヤングケアラーSOS



ワーキングチームを定期的に開催。子ども一人一人に合った支援の方法の計画や、支援の状況を確認します。



「ヤングケアラーサポーター」が支援を必要とする家庭へ訪問。家事や介護をお手伝いします。

本 来、大人が担う家事や家族の世話など年齢に見合わない過度の負担により、学業や友人関係への影響が指摘されるヤングケアラー。今回は、ヤングケアラーのいる家庭を支援するために9月からスタートした「高崎市ヤングケアラーSOS」について、実際に支援に携わる皆さんをお招きしてお話を伺います。

市長 ヤングケアラーについては、最近、社会的な問題として取り上げられることが多くなりました。私は、ヤングケアラーの支援は急いでやるべきだと思っていて、「高崎市は日常生活に困っている子どもを救ってほしい」という固い決意でこれまで準備を進めてきました。国や県では、子どもたちに「あなたはきょうだいの面倒を見てくださいか」など、ネットを通じて調査などで実態を把握しようとしています。しかし、会議での議論や調査に何年も費やしてしまうと、支援に取り組むのが遅くなってしまいま



中嶋 友紀さん
株式会社ケアサプライシステムズ。ヤングケアラーSOSワーキングチームでは支援の調整を担う。

ないので、行政が組織的に対応して手を差し伸べていくべきだと私は思っています。ヤングケアラーSOSでは、家庭内で子どもたちの負担になっている家事、介護、調理、洗濯などの支援のため、「サポーター」を派遣しますが、実際に現場でご活躍いただくのが、中嶋さんや碓田さんのような方々です。お二人が在籍するケアサプライシステムズは、「サポーター」として活動できる介護ヘルパーさんは何人くらいいらっしゃるんですか。
中嶋 現在、300人くらいの介護ヘルパーが在籍しています。今回のヤングケアラーSOSでは、対象者が児童・生徒ということで、保育士や調理師の免許を持つ人や、学童保育の経験がある人からもヤングケアラーサポーターに手を挙げていただいで、私たちも心強く思っています。
市長 そうですか。それはありがたいですね。碓田さんは介護ヘルパーの仕

す。そこで、市では市立中学校と高校の校長に聞き取りを行い、各学校におおむね1人から2人のヤングケアラーがいることが分かりました。子どもたちが困っている状況は「一人一人異なるので、実際に支援を行う際にはきめ細かな対応が必要です。この支援はボランティアの方に無償でお願いするのではなく、しっかりと予算化して、今年の秋から「ヤングケアラーSOS」として本格的にスタートすることにになりました。今日はこの事業に携わっていただく皆さんからお話をお聞きしたいと思います。まず小林さんは、市教育委員会の学校教育課長を務めた経験をお持ちで、その後も、市のことも救援センターで相談員として児童や家庭に対する支援を行っていただきましたが、これまでに「手厚く支援してあげないといけないな」と感じた家庭やお子さんはいらっしゃいましたか。

小 林 そうですね。学校に在籍していた頃、学校に来られないお子さんが家庭内でいろいろな問題を抱えていたということがありましたが、子ども



富岡 賢治市長
「高崎の子どもは高崎で守る」という決意のもとヤングケアラーSOS事業の推進に取り組む。

事に携わってどれくらい経ちますか。
碓田 ケアサプライシステムズでは10年になります。その前に8年間、別の事業所にもいました。私がこの仕事に携わるきっかけになったのは、福祉関係の仕事をしている友達から、介護ヘルパーの資格を取ろうと誘われたことがきっかけです。娘も大学を出てから、同じく福祉関係の仕事をしています。
市長 仕事のお仲間はたくさんいらっしゃると思えますが、主婦の方が多いのですか。

碓田 そうですね。高齢の介護ヘルパーも増えていますが、ベテランの介護ヘルパーも、利用者のご家庭に入るときには初心を忘れずに丁寧に接するように心がけています。

中嶋 福祉に興味を持つ若い人の中でも、訪問介護は一人一人にケアを行うので、ダイレクトに感謝の気持ち伝わってくるというところに喜びを感じている人は少なくありません。短時間の場合もある仕事なので、ダブルワークで働く方もいらっしゃいます。

市長 最近の働き方の特徴ですね。この事業は中高生が相手ということ



碓田 和子さん
株式会社ケアサプライシステムズ。介護福祉士。サポーターとして家庭を訪問し、児童の支援を行う。



小林 裕子さん
市ヤングケアラー推進委員。教員や相談員など児童に対する豊富な支援経験で事業を推進。

救援センターでご家庭からの相談を受ける中で、支援を必要としておっしゃる方がたくさんいることを改めて感じました。

市長 貧困や家庭不和、親御さんが子どもの面倒を見ることができないなど、さまざまなケースがあると思いますが、これも救援センターでは、誰からの相談が多いのですか。

小 林 学校や地域の人、ご家庭から直接の相談が多いです。

市長 学校の先生からはどのような相談がありますか。

小 林 学校の先生は直接お子さんを見ていますので、学校に通えなくなっている状態のお子さんが家庭内でのように生活しているのか、心配して相談されることがあります。高崎市は各学校にスクールソーシャルワーカーが配置されているので、学校から家庭の状況を確認したり指導したりしてくれていますが、それでも心配ということで連絡があります。

市長 「あの子は家に帰ったら大変なんだよな」という子どもは、部活動や勉強、友達付き合いが十分にでき

で難しさもあるかもしれませんが、それでも手を挙げてくれる人がいるというのがありますね。最後に皆さんから、事業の開始に向けて言いたいだけですか。

小 林 ヤングケアラーという言葉は聞くようになりましたが、実際、子どもたちがどのような困りごとを抱えているのかは、なかなか分かりません。子どもたちの将来や夢を狭めてしまうことにつながりかねないので、この事業をきっかけにして、子どもたちのことを皆で考えられるようになってほしいですね。

中嶋 私たちの活動や実績が増えて、地域の皆さんや社会全体で子どもたちを支えていける事業になるといいと思います。

碓田 子どもたちがいつもニコニコと、心から笑い合えるような家庭や社会を作れるよう、現場の活動に携わっていきたいと思います。

市長 高崎の子どもたちのために、一緒に頑張っていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

一同 ありがとうございます。

対談の様子を動画で
ご覧いただけます



新型コロナウイルス感染症対策を取り、参加者の皆さんの理解を得た上でマスクを外して撮影しています